

青少年むらやま

第45号
2025年
令和7年12月1日

特集

青少年の社会に対する考えや意見、未来への希望の声

村山地区青少年育成推進員部会研修会で、若者の声を今後の推進員活動に活かそうと、二人の中学生から、「少年の主張」を発表してもらいました。以下はその内容と本人へのインタビューをまとめたものです。

「可哀そうの向こう側に」

山辺中学校 3年 遠藤千晴さん

車いすに乗っている人や白杖を持っている人を見ると、つい可哀そうと思ってしまう私がいきました。しかし、以前、障がい者施設で働いていた母から、みんな毎日を精一杯過ごしている、一人の人間として尊重しているという話を聞いて、自分が恥ずかしくなりました。振り返ってみると、施設の利用者が作ったお菓子や日用品を目にするのが何度かありました。イベントなどで販売している姿を見たこともあります。すべての人々が互いに支え合いながら一生懸命生きていることに気がつきました。

そこで、自分も周りの人のためにできることはないかと考え、ボランティアに携わることにしました。地域の子ども達とのふれあい活動や町のイベントへの参加協力など、サークルに所属して活動を始めました。その活動の中で経験した人々との温かい交流、頼ってもらったことで感じた責任感、自己存在感。活動したからこそ自覚できた自分の成長。今後も自分を成長させてくれたという感謝の気持ちを忘れずにボランティア活動を中心に、支え合いの活動に積極的に取り組んでいこうと思います。



山辺中学校 3年 遠藤千晴さん

「成長」

大江中学校 3年 鈴木里佳さん

今後は、「やまのべ・まるごと・フェスティバル」で推進員の方々と啓発ディッシュ配りを行います。また、自立センターを訪ね、アルミ缶回収のお手伝いなどを予定しています。障がいを持つ人々に対して同情で終わらず、そっと手を添えられる人間になろうと思います。

県外で初めて参加したバレーボール大会で、スターティングメンバーとして出場した1年生の12月。着地した時に、鈍い音とともにありえない方向に曲がった膝。搬送先の病院で、左膝前十字靭帯断裂。半月板損傷。全治は最低10か月。戸惑いと不安で涙を流すことしかできませんでした。手術を終えた後も、自分の意思で動かない左足を見ながら、今までのようにプレーしている姿が思い描けませんでした。

そんな自分を変えたのは、たくさんの人からの励まし言葉でした。そして、多くの人々に支えられ、3年間の部活動を悔いなく終えることができたのです。その経験を通して今度は自分がまわりを励まし支える立場になりたいと思うようになりました。例年行われてきた大江中のアルミ缶回収。高齢者施設のためにたくさん回収して、様々なものを贈りたいと考えました。

その回収場所を増やそうとする例年と違った計画に、後ろ向き意見も執行部の中にはありましたが、

説得することができました。そしてたくさん集まったアルミ缶を見て、取り組んでよかったと思いました。

部活動での経験が、まわりの人を支え背中を押す存在へと私を成長させてくれました。

多くの人から勇気をもらったように、私もまわりの人に、勇気を与えられる存在になりたいと思います。そのために、小さなことでも一つ一つ積み上げて努力する理想の自分になりたいと思います。



事例発表と

課題解決に向けたグループ討議

青少年育成推進員部会研修会

令和7年9月28日、山辺町中央公民館で開催された推進員部会研修会。関係者約70名が参加しました。事例発表では、山辺町放課後子ども教室地域コーディネーターの有間良雄氏より、「放課後子ども教室で見た子供達の今」という演題で、発表いただきました。月1回開催される子ども教室。長年携わってきた経験をもとに、今の子ども達の行動における特徴と、企画されたプログラムを、画像を使いながら紹介していただきました。そして最後に、子どもに接する際に心掛けていることを話していただきました。（詳細は4ページに掲載）

その後、推進員活動の情報交換や課題、その対策について、熱心に話し合いが行われました。

提言



青少年育成市民会議の活動

尾花沢市青少年育成市民会議 会長 池田正義

私たちは、明日の尾花沢を担う青少年が、誇りと希望に満ち、心身ともに健やかに成長することを願っています。そこで、「青少年は地域で守り、育てる」ことを基本とし、家庭、学校、地域、職場がそれぞれの役割を認識し、市民の理解と協力のもと、地域愛と人間愛に支えられた青少年の生きる力を育む運動に取り組んでいます。

令和6年度の本市の市民集会は、「大人と子供の夢見るチカラ」とともに未来（まへ）へ」をスローガンとして開催されました。

本集會では、尾花沢市の青少年健全育成のために素晴らしい活動が続けてこれられました一つの優良団体と5名の功労者の表彰式、そして、記念講演が行われました。



青少年健全育成市民集會

その講演では、「夢は諦めない！継続する大切さ」と題しまして、尾花沢市出身のパフォーマーたつみ（辺見竜二）様よりご講演いただきました。大道芸の

パフォーマンスに魅せられ独学で練習に励み、休日は仕事の傍ら大道芸人として活動が続けてきたことを、手に汗握るジャグリングやマジックなどを交えてお話いただきました。自分の夢に向かって歩き続けることの大切さに、改めて気づくことのできた貴重なご講演でした。

本市民会議は、子供たちの健やかな成長に向けて、今後もよりよい社会環境づくりに向けてまいります。

令和7年度 山形県青少年県民大会表彰者 青少年育成功労者

長年各地区で青少年の健全育成活動に貢献された方々（村山地区関係）

- ・伊藤 康則 ・玉ノ井 一 ・山口 四郎（以上山形市）
- ・鈴木 義明（中山町）
- ・阿部 裕子 ・佐藤 和則（以上寒河江市）
- ・富樫 啓（大江町）

※10月26日 鶴岡市で行われた青少年健全育成県民大会で表彰されました。おめでとうございます。

最優秀賞者の声

朝日中学校 3年 渡邊 未来さん

今回最優秀賞をいただきとてもうれいす。家族も喜んでくれました。いじめは、一人の力だけでは防げることができません。みんなが手を取り合いながら、協力して取り組むことが、その防止につながると思っています。一人一人の勇気が一つになることが大事だと考えています。その意図を最も表現する言葉がバトンだったので、標語に取り入れました。今、社会は多様性の時代、一人一人の考え方も行動も同じではありません。しかし、その違いを認めながら互いを理解し、尊重することがいじめをなくすためには重要なことです。時には、ぶつかることもあると思いますが、そういう思いを持っていれば、きっと強い絆が生まれ、いじめはなくなると思います。これからも、そういう気持ちを持ち続けたいです。（尚、渡邊さんの作品は、県の優秀標語として表彰されました。）



青少年健全育成県民大会での表彰

令和7年度 村山地区優秀標語 “いじめ・非行をなくそう” 優秀標語

村山地区管内の小中学校及び特別支援学校144校より21,264点ものご応募をいただきました。御協力に感謝申し上げます。

最優秀

君の番 みんなでつなごう 勇気のバトン
朝日町立朝日中学校3年 渡邊 未来さん

優秀

いじめはアウト、思いやりはファインプレー、
なかよしはまんるいホームラン
山形市立本沢小学校2年 横尾 みなみさん

そのことば くちにだすまえ しんききゅう
寒河江市立寒河江小学校2年 渡邊 朔さん

たようせい みとめて広がる 可のうせい
村山市立楯岡小学校4年 大森 柊弥さん

ネット社会 いつもいじめと 紙一重
天童市立第一中学校2年 後藤 陽菜さん

ふみだそう だまってみるだけ もう終わり
村山市立葉山中学校1年 高橋 恵さん

あそびでも あいてのきもちも ちがうかも・・・
楯岡特別支援学校小学1年 佐藤 圭真さん

大石田町 『二十四孝PARTII』の活動について

大石田町高校生ボランティアサークル二十四孝は昭和56年から活動を行っています。その後一度活動を休止しましたが、昭和61年に「二十四孝PARTII」と改称し活動を再スタートさせました。

大石田町内での活動をメインに行っています。毎年8月に開催する大石田まつりの前夜祭となる「維新祭」では、運営のボランティアとレモネードスタンドを実施しました。まつりをみんなで盛り上げようとする姿が見られました。

また、近年では青年団体や他市町のサークルとの交流を大切に行っています。「ボランティア」の活動は多岐に渡ります。活動する側が少しでも「楽しい」と感じてもらうことで、これからも続けていくきっかけとなり、活動の幅が広がることにもつながるものと思います。

高校生が、家庭でも学校でもない場所でボランティア活動をするということ、新たな出会いや交流の機会が増え、互いに意識を高められるものと考えます。その「繋がり」や「経験」をこれからの生活にも活かしてもらうためにも活動を続けていきたいと思っています。



河北町 『かほくほくほくまつり』での啓発活動

河北町青少年育成町民会議では、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動の一環として、地域のイベント等にあわせた啓発活動を実施しています。今年度は10月に開催された「かほくほくほくまつり」において、来場者に啓発用のポケットティッシュを配布しました。

このほか、例年9月の「谷地どんがまつり」の開催期間に、青少年の非行・被害防止のため、祭典会場周辺を中心に青少年のたまり場となりやすい場所等の巡回を実施するほか、各地区でも青少年の安全を守るための活動の一環として、放課後の見守り巡回等を行っています。これらの活動を通し、参加した大人も地域に目を向けるいい機会になっています。

巡回活動のほかにも、「わたしの街の環境点検」などの調査も実施しています。今後とも町民の皆様と協力しながら健全な青少年を育むよりよい地域環境づくりのため活動を継続していきます。



山形市 『高校生ボランティアバンク(登録制)』スタート

令和7年5月から、市内全高校生に広くボランティア活動(以下「活動」という。)機会の場を提供するために、高校生ボランティアバンクをスタートさせました。以前は、市内数校の高校と連携し、活動における世代間交流を通して、コミュニケーション能力や豊かな心の育成などをねらいとし、高校生に活動機会の創出を実施していましたが、令和7年度から、活動拡充のため、市内全高校生へ参画を呼びかけることにしました。登録者数は16校84人(8月末現在)となっています。

現時点では、公民館講座及び当委員会主催事業に、延べ人数37人が活動しています。どの場面でも、高校生の丁寧な対応、温かい声かけ、適切な支援により、受講者たちは安心して意欲的に絵画作成(写真)、スマホ操作、学習などに取り組むことができました。講座の様子から、高校生も受講者も、日頃の生活では体験できない貴重な交流を進めることができ、有意義で楽しい時間になったことが伝わってきました。スタートしたばかりですが、前述のねらいを達成できるよう取り組んでいきたいと考えています。



西川町 ボランティアサークル「color's(カラーズ)」の活動

西川町の中高校生ボランティアサークル(カラーズ)は「できるときにできることを」をモットーに14名で活動しています。今年も、西川町入間(いりま)地区で、町のママさんグループが主体となって、子どもから大人まで楽しめる「お寺縁日」が開催されました。「color's」メンバーが令和5年に初めてお手伝いでした。今年で3回目となりました。

今年にはわたあめの担当になり、初めはうまくできず心配したり、緊張したりしていましたが、子どもたちと「何色が良い?」と話しながら作っているうちに、いつの間にか緊張がほぐれ、わたあめ作りも楽しむことができました。

地域の中で様々な世代の人たちと関わることは、新たな発見があり、普段とは違った体験をすることができます。友達がいらない事をする中で、自分の人生の糧になると感じる事ができた一日になったと思います。今後、できると積極的に取り組んでいきたいです。



所感



朝日町青少年育成推進員会

会長 鈴木 高光

青少年の健全育成は、地域の未来を担う子ども達を社会全体で育てていく大切な取り組みです。朝日町では6名で活動しています。近年、子ども達を取り巻く環境は大きく変化しており、家庭や学校だけで解決できない課題も増えています。その中で、地域の大人が関わり、支え合いながら子ども達を見守ることの重要性を改めて感じています。

朝日町青少年育成推進員会では、家庭、学校、地域が連携し、子ども達が多様な体験を通じて心豊かに成長できるよう、様々な活動を行っています。その一つが「わくわく体験事業」です。今年度は、小学生を対象に最上町前森高原を訪れ、馬の手入れや乗馬体験を行いました。最初はおそろおそろ近づいていた子ども達も次第に馬と心を通わせ、自ら進んで世話をする姿が見られました。また、尾花沢市徳良湖では、ガラス工房で自分だけのデザインを施したグラスづくりにも挑戦しました。作品を手にした子ども達の笑顔には、達成感と喜びがあふれていました。

こうした体験を通して、子ども達は自然や動物、ものづくりの楽しさを学ぶと共に、協力や思いやりの心を育んでいます。今後も私たち青少年育成推進員は、少数ながら地域の皆さんと力を合わせ、子ども達が安心して成長できる環境づくりに努めてまいります。子ども達が「この町で育って良かった。」と感じられる朝日町を目指し、四季の移りい豊かなこの朝日町で、青少年育成に取り組んでいきたいと思っています。

村山地区「青少年育成運動支援事業」助成団体表彰

当協議会では、地域活動の一環として青少年の居場所づくりや地域のボランティア活動等に顕著な団体を顕彰し、地域単位の活動の活性化を図るため、奨励金を交付しています。

今年度は、「蔵王第一学区青少年健全育成連絡協議会」に決まりました。蔵王第一学区では、令和5年度安全マップの全面見直しを行い、蔵王第一小学校のホームページに掲載。令和6年度以降、その内容に変更がないか確認し、その結果を反映させています。安全マップをデータ化し、状況の変化に応じて速やかに情報を発信していること、児童、保護者のみならず、地域住民の意識高揚にもつなげているという点が評価されました。

表彰式は、11月2日(日)「蔵王地区まつり」開会式の席上で行われ、協議会会長菊地昭男氏に奨励金を手渡しました。菊地さんは、「作成してから20年。これまで更新できなかったことをずっと懸念しておりましたが、令和5年度、蔵王一小創立150周年を機に、芸工大の学生に全面的に協力いただいたり、安全マップのデータ化が完成しました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

現在熊やイノシシによる被害が問題となつていますが、このマップが役立つよう更新していきたいと思っています。」と話していました。



「放課後子ども教室で見た子供達の今」

山辺町子ども教室地域コーディネーター

有間 良雄氏

今の子どもの特徴として、①おとなしい②緊張しない③自己主張しない、協調性がある④仲がいい⑤理解するのが速い、順応性が高い、という5つを紹介していただきました。そして、工作型運動型、体験型のプログラムを中心に活動している子ども教室内で、子どもに接する際に心掛けていることを紹介。①叱らない、叱らないが注意はする。②褒める、一緒に喜ぶ。③共育、大人も子供も一緒に育つという姿勢。④全体の調和を考える。⑤スマホの話題は触れない。

参加者からは、「子どもと接する場合は同じ目線、見方に立つことの重要性を学んだ。」「学校では体験できないプログラムをたくさんの子ども達に経験してほしい。」「スマホと完全に離れる時間を作ることは大切なことだ。」等、様々な感想が寄せられました。



編集後記

これまで年2回の発行をしてきましたが、諸事情により、やむを得ず年1回の発行となつてしまいました。その分、こども家庭支援課のホームページに地区協議会の情報をアップしておりますのでぜひご覧ください。

